

一般演題 6 O6-04

地域医療連携と高気圧酸素治療での放射線障害の 1 例

○長尾優大¹⁾ 深谷武徳¹⁾ 柳 健次¹⁾ 江上祐市¹⁾
善波奨之¹⁾ 川畑貴士¹⁾ 須藤 優¹⁾ 三浦邦久²⁾
石原 哲²⁾

1) 医療法人伯鳳会 東京曳舟病院 診療技術部 ME 課
2) 医療法人伯鳳会 東京曳舟病院 診療部救急科

認知していただき、地域医療連携を深めていく。さらに、HBO 継続中でも他院や当院に通院ができるよう HBO 施設を持つ施設との連携を検討する。

【はじめに】

当院は東京都墨田区にあり、病床数 200 床を有する地域医療救急センターを標榜している。DMAT など専門チームを保有し、指定病院としてチームを派遣し機動性と専門性を活かした医療支援を行っている。高気圧酸素治療（以下 HBO）では脳血管障害や腸閉塞、末梢循環障害に伴う皮膚潰瘍など、様々な疾患に対して治療を行ってきた。

【地域医療連携】

当院の症例数は 2018 年に比べ減少傾向にあるが、治療回数は減少傾向にない。これは適応基準が明確化され、最大 30 回までできる症例が増加していることや近隣施設から HBO 目的の紹介を多数頂いていることが影響していると考えられる。紹介を頂いた中でも放射線障害が突出しており、放射線性膀胱炎が特に多いことから、今回難治性疾患の中でも放射線性膀胱炎を注視している。

【症例報告】

86 歳女性で、外陰部 Paget 病にて 2010 年に広汎切除（尿道周囲は温存）後、2015 年に再発を認め、放射線照射治療を 60Gy/30fr で施行。その後、尿道狭窄と放射線性膀胱炎となった方。2024 年の 3～4 月にかけて HBO を行い軽快退院となったが、同年 10 月に粘膜からの出血を認められ、膀胱鏡を実施したところ放射線性膀胱炎の再燃が疑われ当院に再入院された。

【転帰】

放射線性膀胱炎に対し、2 回の入院を経て 27 回治療を実施し、軽快退院となった。

【考察】

当院との医療連携が希薄な周辺施設との連携を図ることで紹介数の増加が今後見込める事が示された。

治療における長期入院は患者にとって負担が大きいことから、外来に変更し通院ができると負担の軽減につながる。

HBO 設備を備えた病院間の連駅により、患者の通院負担を軽減できるよう、さらなる地域医療連携が必要と考えられる。

【結語】

周辺の放射線治療施設に HBO の効果、有用性などを